



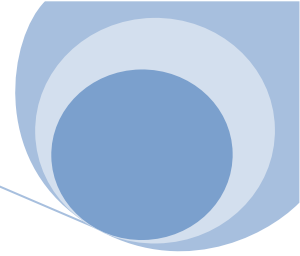
日本語教員養成プログラム ガイドブック

日本語教育を学ぶ人のために

2021 年版

山梨大学教育学部

日本語教員養成プログラム運営委員会



I. プログラムの概要



新入生の皆さん、ようこそ山梨大学教育学部へ！

山梨大学教育学部には、教科教育のすべてのコースがありますが、その他にもいくつかの特色ある教育プログラムが用意されています。

「日本語教員養成プログラム」は、日本語教育について理論的かつ実践的に学ぶ**副専攻プログラム**です。グローバル化する現代社会で生きる力を備えた人材の養成を目的として、2008年に山梨大学に新たに開設されました。

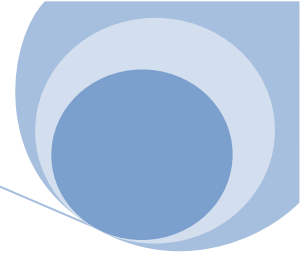
教育学部の学生なら、コースを問わずだれでも受講することができます。小中学校、高等学校の教員を目指す人、国内外の日本語学校で日本語教師になりたい人、日本語や日本文化に興味がある人などを歓迎します。

プログラムの背景と目標

このプログラムは、次のような背景と目標をもって運営されています。

- 日本の学校教育の現場では、日本語指導を必要とする子どもたちが増えています。日本の小中学校や高等学校の教員を目指す人は、そのような子どもたちを支援できる知識や技能を身につけることができます。
- 現代の日本社会は、外国にルーツを持つ人たちとともに暮らす多文化社会へと急速に転換しつつあります。異なる言語と文化を背景に持つ外国人と共生できる社会を作るための前提となる知識を学び、生涯学習に生かすことができます。
- 日本語学校で日本語教師として働きたいという人、また青年海外協力隊などの国際協力活動に参加したい人にとって、日本語教育の基礎的な知識や技能を学ぶことができます。





Ⅱ．基礎科目

このプログラムでは、日本語教育概論、日本語教授法、日本語学、言語学など、日本語教育について多角的に考えていくための科目を学びます。ここでは日本語教育を中心に三つの分野の基礎科目を紹介しましょう（「時間割」p. 10 参照）。

日本語教育学

日本語教育を取り巻く歴史と現状、日本語を教えるための方法を学びます。また外国人の子どもや留学生を対象にした日本語教育実習を行います。

日本語教育概論

日本語教授法

日本語教育実習Ⅰ/Ⅱ

日本語学

日本語の文法、音声・音韻、文字・表記・語彙など、日本語の基礎的な内容を学習します。高校までの国語とは異なる観点から、外国語としての日本語をとらえていきます。

日本語の文法

日本語の音声・音韻

日本語の文字・表記・語彙

言語学

人間の言語一般の特徴について、ことばと社会、ことばと心理という観点から学びます。

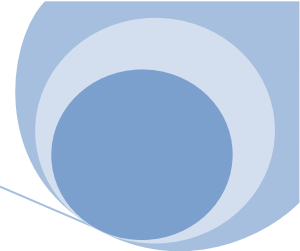
関連科目として、国語学概論、英語学概論、中国語学概論などもあります。

社会言語学

言語心理学

言語習得論





Ⅲ. 卒業後の進路

外国につながる子どもを支援する

現在、日本の学校には、**日本語指導が必要な児童生徒**が増えています。小中学校や高等学校の教員を目指す人は、そのような子どもたちを支援するための知識・技能を身につけることができます。

また外国につながる子どもたちには、日本語指導だけでなく、かれらの母語や文化的背景にも配慮した支援が求められており、現在そうした子どもたちを指導することができる資質・能力を備えた教員——**多文化教員**の育成が急務とされています。

日本語指導が必要な児童生徒

日本語指導が必要な児童生徒とは、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じ、日本語指導が必要な児童生徒」のことをいいます。

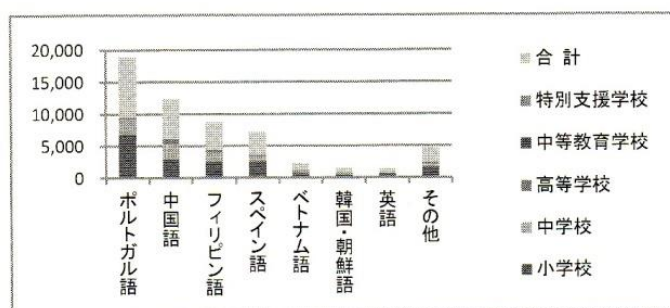
多文化教員の養成・研修に向けて

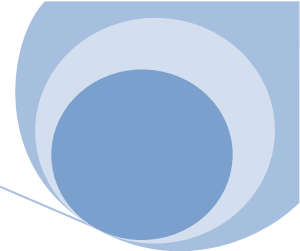
文部科学省では、日本語指導が必要な児童生徒を専門的に指導することができる教員の養成・研修が整備されてきており、今後ますますこの分野の需要は高まってくると予想されます。

特別の教育課程

学校教育法では、平成27年度から、日本語指導が必要な児童生徒の実態を踏まえたうえで、個に応じたきめ細かな教育を行うための「**特別の教育課程**」を編成するとされています（「学校教育法 施行規則」）。

日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別在籍状況





日本語教師になるために

国内の日本語学校に就職するための条件としては、次のようなものがあります。

- **日本語教育に関する大学・大学院を修了**
- 日本語教師養成のための専門機関で 420 時間プログラムを修了
- 「**日本語教育能力検定試験**」に合格（「別表」 p. 19 参照）

本プログラム修了は、日本語教育に関する大学修了の条件を満たし、プログラム修了者（28 単位を修得）には山梨大学から**修了証**が授与されます。また本プログラムの科目は日本語教育能力検定試験にも準拠しています。

プログラム修了後の進路

A. 国内の公立学校

国内の公立学校で日本語を母語としない児童生徒に対する日本語指導を行うことができます。なお平成 25 年度から、外国籍児童生徒への日本語指導は「**特別の教育課程**」（「学校教育法 施行規則」）に位置づけられました（「**教育現場の声**」 p. 12 参照）。

B. 日本語学校

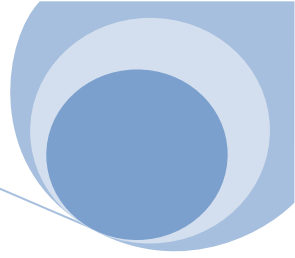
大学卒業後にすぐに日本語教師になれる人は少ないですが、現在、国内の日本語教師の需要は高まっています。本プログラム修了生のなかには、日本語学校で教えている先輩もいます（「**修了生の声**」 p. 14～参照）。

C. 青年海外協力隊

国際協力機構（JICA）が海外ボランティアとして「日本語教師」を派遣しています。本プログラムを修了すると日本語教育の副専攻相当の教育を受けたことを証され、広く応募の門戸が開かれます。

日本語パートナーズ

国際交流基金アジアセンターが、2014 年より ASEAN 諸国の教育機関に日本語授業アシスタントを派遣しています。このプログラムは、大学生も在学期間中に応募することができます。なお、2021 年度の募集については未定です。



IV. 教員紹介

仲本 康一郎（なかもと こういちろう）

教養教育センター（兼 教育学部） 教授

専門分野 日本語教育、認知言語学

担当科目 日本語教育概論、日本語の文法、言語心理学

長谷川 千秋（はせがわ ちあき）

教育学部 教授

専門分野 日本語学、日本語の歴史

担当科目 社会言語学、日本語史

伊藤 孝恵（いとう たかえ）

国際交流センター 准教授

専門分野 日本語教育、異文化接触

担当科目 日本語教授法、日本語教育実習Ⅰ

江崎 哲也（えさき てつや）

国際交流センター 准教授

専門分野 日本語教育、音声学

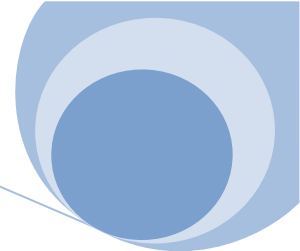
担当科目 日本語の音声・音韻、日本語教育実習Ⅰ

會田 篤敬（あいだ たかのり）

国際交流センター 助教

専門分野 日本語教育、日本語教育史

担当科目 日本語教育実習Ⅰ



V. 質問コーナー

Q1. 日本語教師ってどんな職業ですか？どうすれば日本語教師になれますか？

日本語教師とは、**日本語を母語としない人たちに日本語を教える教師**のことをいいます。日本国内だけでなく、海外にもたくさんの日本語学習者がいます。日本語を外国語として教えるためには、国語の知識とは異なる、日本語教育の知識と技能が求められます。

現在、日本語教師になるためには、いくつかの方法があります。ひとつは**日本語教育に関する大学、大学院、専門学校を修了すること**。もうひとつは**日本語能力検定試験に合格すること**です。このプログラム修了は前者の条件を満たします。

Q2. 日本語指導が必要な児童生徒が増えているって本当ですか。

日本語指導を必要とする児童生徒とは、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じ、日本語指導が必要な児童生徒」のことをいいます。

現在、こうした子どもたちは、少なく見積もっても、日本全国に4万人はいるとされています。本プログラムでは、こうした外国につながる子どもたちに適切な指導、支援を行うための基礎を学ぶことができます。

Q3. プログラムに参加する条件はありますか？また、どんなことを学びますか？

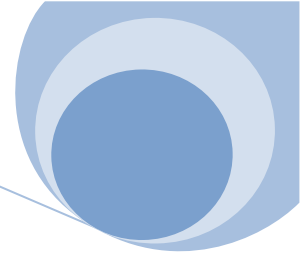
教育学部の学生ならだれでも参加できます。ただし、共通科目や専門科目と並行して学ぶことになるので、計画的に履修してってください。修了までに最低2年を必要とします。1年次か2年次からの履修を勧めます。

本プログラムでは、日本語教育、日本語学、言語学といった基礎科目のほかに、教育学、心理学、社会学、日本学、異文化理解など幅広い内容を学びます。またプログラムの最後に、**外国人児童生徒や外国人留学生に向けた教育実習**を行います。

Q4. 日本語教育の知識が必要とされている分野はほかにありますか？

プログラムで得た日本語教育の知識とスキルは、学習障害や発達障害など、**特別なニーズを持つ子どもの教育、支援**にも応用することができます。とりわけ、日本手話を母語とする「ろう」の子どもたちは日本語教育を必要としています。

また、外国にルーツを持つ人々との共生を考えていくうえでも、本プログラムで学んだことは生かされるでしょう。**異文化を背景とする人々と交流**していくためにも、また**地域で教育、福祉など生活上の支援**を行っていくためにも大きなツールとなります。



Ⅵ. 履修規定

プログラムの履修科目は、《社会・文化・地域》《言語と社会》《言語と心理》《言語と教育》《言語》の5つの領域からなっています。これらの科目からプログラム修了に必要な単位数 **28 単位** を修得すると、本学から修了証が発行されます。

必要単位数と必修科目

必要単位数

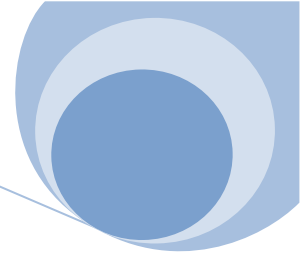
《社会・文化・地域》から2単位、《言語と社会》から4単位、《言語と心理》領域から4単位、《言語と教育》から6単位、《言語》から6単位を修得し、加えて任意の領域から6単位を修得し、合計で28単位以上を修得することが要件となります。

必修科目、選択必修科目

「日本語教育概論」「日本語教授法」「社会言語学」は**必修科目**です。また、「言語心理学」「言語習得論」（1科目選択）、「日本語の音声・音韻」「日本語の文法」「日本語の文字・表記・語彙」（2科目選択）、「日本語教育実習Ⅰ」「日本語教育実習Ⅱ」（1科目選択）は**選択必修科目**です。

履修順序

「日本語教育概論」「日本語教授法」は、この順序で履修することを原則とします。また「日本語教育実習Ⅰ（3年後期）」「日本語教育実習Ⅱ（4年前期）」を履修するには、「日本語教育概論」「日本語教授法」の単位を修得していること、または履修中であることを原則とします。



日本語教育実習

履修内容

日本語教育実習は、本プログラム修了のための**選択必修科目**（2単位）です。実習Ⅰでは、本学の**外国人留学生を対象とした教育実習**を行います。実習Ⅱでは、山梨県の小学校に在籍する**外国人児童生徒を対象とした教育実習**を行います。それぞれの科目の目標と内容については、ガイドブックの最後にあるシラバスを参照してください。

履修申告

日本語教育実習を履修する人は、**事前に実習ガイダンス**に出席してください。ガイダンスに参加せずに履修することはできません。特に、日本語教育実習Ⅱについては、事前に教育委員会に調書の提出が必要となります。

※ ガイダンスの日程は CNS で通知します。例年、**3年次の7月上旬**です。

修了証

プログラム修了に必要な所定の単位を修得すると、山梨大学から**修了証**が発行されます。なお、修了証は、国内外の日本語教育機関に応募する際に必要となります。大切に保管しましょう。また、必要に応じて**修了見込書**が発行されます。手続き等については教育学部教務課に問い合わせてください。

修了証申請

「修了証」を取得するには、**教育学部教務課への事前申請**が必要になります。

※ 申請期間は CNS で通知します。例年、**4年次の12月上旬**です。

修了見込書

履歴書等に記載する必要がある人は、「**修了見込書**」を発行しますので、随時、教育学部教務課に申請してください。

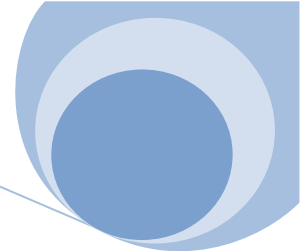
日本語教員養成プログラム 開講科目一覧

		必選	単位	科目名	学年	担当者	授業内容キーワード	
社会・文化・地域	世界と日本	1科目	2	日本文学概論	2	尾形	日本文学	
			2	日本古典文学史	2	池田	日本文学	
			2	書写演習Ⅰ	2	清水	日本文化・書道	
			2	日本史概説	2	大隅	日本の歴史	
	異文化接触		2	外国史概説	2	皆川、会田	世界の歴史	
			2	生涯学習論	1	栗田	生涯学習	
			2	イギリス文学史	2	加藤千	外国文学・異文化理解	
			2	アメリカ文学史	2	奥村	外国文学・多文化社会	
			2	国際理解と多文化共生	2	鴨川	国際理解教育	
			2	地域理解と多文化共生	2	加藤順	多文化共生	
			2	哲学倫理思想史	2	相澤	西洋思想	
			要求単位数	2単位				
言語と社会	言語と社会の関係	1科目	2	社会言語学	2	長谷川	社会言語学	
			2	社会学概論	2	鈴木	社会学	
			2	子ども文化論	3	川島	子どもと文化	
			2	異文化間コミュニケーション	3	ストロースマン	異文化間コミュニケーション	
	異文化コミュニケーションと社会		2	異文化理解Ⅰ	3	加藤千	異文化理解	
			2	異文化理解Ⅱ	3	奥村	異文化理解	
			2	教育学概論	1	青柳	教育政策	
			2	学校教育相談論	2	川本	教育相談	
要求単位数	4単位							
言語と心理	言語理解	選必	2	1科目	言語心理学	2	仲本	言語心理学
	言語発達	選必	2		言語習得論	2	仲本	言語発達
	言語学習と教育	2	児童期心理学		1	塚越	児童期の心の発達	
		2	英語教育の諸問題Ⅰ		2	田中武	外国語学習・教育	
		2	英語教育の諸問題Ⅱ		2	堀田	外国語学習・教育	
		異文化理解と心理	2		生涯発達教育心理学	1	小野田、若本	教育心理学
	2		青年期心理学		1	小澤、尾見	青年期の心の発達	
	2		学校臨床心理学		2	田中健	臨床心理学	
要求単位数	4単位							
言語と教育	日本語教育・実習	必	2	1科目	日本語教育概論	1	仲本	日本語教育入門
		必	2		日本語教授法	1	伊藤	日本語教授法
		選必	2		日本語教育実習Ⅰ	3	→※1	教育実習
		選必	2		日本語教育実習Ⅱ	3	仲本	教育実習
	外国語教育		2	初等外国語科教育学	1	堀田	初等外国語教育	
	言語教育と情報		2	情報科学入門及び実習	1	→※2	PCソフト	
	要求単位数	6単位						
言語	日本語の構造	選必	2	2科目	日本語の文法	1	仲本	日本語の文法
		選必	2		日本語の音声・音韻	1	江崎	日本語の音声・音韻
		選必	2		日本語の文字・表記・語彙	1	仲本	日本語の文字・表記・語彙
	言語の構造 言語研究		2	1科目	日本語史	2	長谷川	日本語史
			2		国語学概論	2	長谷川	日本語学
			2		中国語学研究	2	町田	中国語学
			2		英語学概論	3	磯部	英語学
			2		言語学概論	2	磯部	一般言語学
コミュニケーション能力		2		英語会話	2	グレアム	外国語運用能力	
要求単位数	6単位							
総要求単位数		28単位	28単位＝14コマとして 14コマ×30時間＝420時間					

※1 伊藤、江崎、會田 ※2 山際、宇多、森長、林

(必): 必修科目

(選必): 選択必修科目



VII. 時間割

プログラムは、学部共通の必修科目、選択科目が利用できるため、専門コースの履修と両立しやすいようになっています。ただし、プログラム修了までに最短でも2年はかかります。専門コースの時間割と照らし合わせ、計画的に履修を進めてください。

基礎科目 時間割

「プログラム基礎科目」(p.2 参照)の時間割は、次のようになっています。

前期

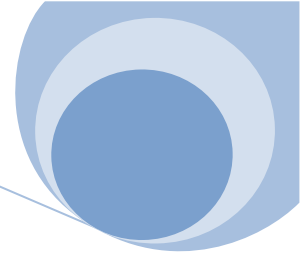
	月	火	水	木	金
I		日本語教育概論 (仲本)			
II	日本語教育実習 II (仲本)				
III					
IV	社会言語学 (長谷川)				
V					

後期

	月	火	水	木	金
I		言語心理学 注2 (仲本)	日本語史 (長谷川)	日本語の文法 注1 (仲本)	
II					
III					
IV		日本語教授法 (伊藤)		日本語の音声・音韻 (江崎)	
V			日本語教育実習 I (伊藤・江崎・會田)		

注1)「日本語の文字・表記・語彙」は「日本語の文法」と隔年で開講します。

注2)「言語習得論」は「言語心理学」と隔年で開講します。



VIII. 履修モデル

日本語教育に関心を持てるかどうかまだわからないという人は、まずは「日本語教育概論」の受講を勧めます。その後、続けてみようと思えば、「日本語教授法」やその他の基礎科目へ進んでいくとよいでしょう。

1 年次

日本語教育概論（前期：火 1）
日本語教授法（後期：火 4）

2 科目必修



2 年次

日本語の音声・音韻（後期：木 4）
日本語の文法（後期：木 1）
日本語の文字・表記・語彙（後期：木 1）

2 科目選択



3 年次

社会言語学（前期：月 4）
言語心理学（後期：火 1）
言語習得論（後期：火 1）

2 科目必修



4 年次

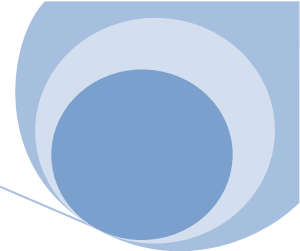
日本語教育実習Ⅰ／Ⅱ（4年生）

1 科目選択

山梨大学から日本語教育の専門教育を受けた証として「修了証」が発行されます！



終わった!!



教育現場の声

外国にルーツを持つ子どもたち



今澤 ^{やすし} 梯 先生

甲府市立大岡小学校 日本語指導担当

近年、国際化が進み、外国にルーツを持つ子どもたちが学校現場に数多く在籍するようになってきています。日本に来たばかりの「外国人」の子どもたちは、まずどんなことに戸惑い、困難を感じると思いますか？そう、日本語です。子どもたちは日本の学校に編入してから否応なしに日本語を覚えなければならない状況に置かれます。わけの分からないことばが頭の上を飛び交う環境にいきなり入れられ、そこでずっと生活しなさいと言われてたら…。

子どもたちが習得しなければならないのは、日常会話だけではなく、学習に使われることばや表現（「学習言語」）を習得していかないと勉強についていけなくなります。日常会話は1～2年で習得できますが、「学習言語」を習得するには5～7年かかるといわれています。認知力や思考力、判断力や表現力、社会性など、学齢期の子どもたちの育むべき力は多いのですが、その多くはことばを介して育っていきます。そのことばが充分でなかったら…。日本社会のなかで学習についていけないということは、その後の生活に大きな影響を受けることになります。ことばの問題なのですが、成長、発達途中の子どもたちの場合、ことばの問題だけではすまないのです。

そして、学齢期に日本にきた子どもたちがぶつかる最大の壁は進路の問題です。ほとんどの子は高校進学を希望しますが、第二言語で挑まなければならない高校入試の壁は本当に厳しいです。「日本人」の子どもたちの高校進学率は100%に近いですが、外国にルーツを持つ子どもたちの進学率は非常に低いと言われています。ことばの問題は、その後の子どもたちの人生に大きな影響を与える問題なのです。

また、子どもたちは日本の学校という異文化の環境にいきなり入ることになり、その環境で毎日生活しなければなりません。学校に「一歩足を踏み入れたとたんに、そこは異文化の世界」なのです。その上、わけの分からないことばが頭の上を飛び交い、何も言葉が通じない…。そんな環境のなかで、今日を、明日を、一週間を、一ヶ月、一年…とずっと過ごすと思うと…。大人（保護者）は目的、目標を持って来日します。しかし連れられてくる子どもたちはどうでしょう。子どもたちはすべて、自分の意思ではない来日です。「来たくなかった」という思いを持って来日する子どもたちも少なくありません。そして来日後、すぐに異文化、異言語の環境——日本の学校に入れられます。自分の意思でない来日、来たくなかったという思いのなかで、その異文化に適応し、日本語を覚えるよう言われま

す。そして何年も経たないうちに、進路、進学という壁に直面していきます。

日本で生まれ育った外国にルーツを持つ子どもたちにも、課題が多くあります。家庭の言語環境により、不十分な母語習得になってしまったり、日本語の習得が不十分のままになってしまったりする子どもたちも多いです。またやはりことばの問題だけでなく、様々な問題を抱えています。アイデンティティ、母語、進路・進学、保護者との関係、…。これらの分野はまだ課題が多く、外国にルーツを持つ子どもたちが、日本の学校や社会の中で生き生きと生活できていない現状があります。しかし、様々な課題や困難の中、子どもたちは一生懸命生活しています。これからも多くの外国にルーツを持つ子どもたちは増えていくと思われます。ぜひ、このような子どもたちの現状を知り、また実際触れあってみてください。足下の国際化を考えるきっかけにいただけたら嬉しいです。

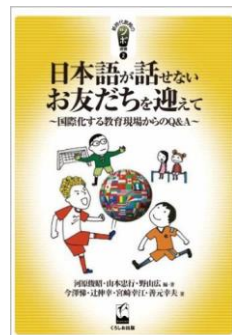
今澤 悌先生の書かれた本

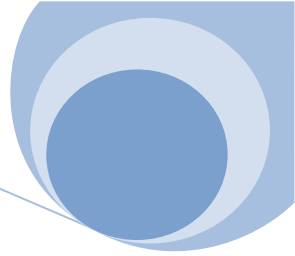
- ① 『小学校「JSL国語科」の授業づくり』（スリーエーネットワーク）
- ② 『日本語を話せないお友だちを迎えて』（くろしお出版）
- ③ 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』（凡人社）

実は、今澤悌先生は、日本の学校教育における日本語指導をけん引しておられる大変有名な先生です。こんな先生が山梨県の、それも甲府市小学校におられるなんて、私たちにとって本当に幸せなことだと思います

これらの本は日本に生きる外国にルーツを持つ子どもたちのことをぜひ知ってもらいたいという熱い思いでご執筆されています。皆さんもぜひこの分野に関心を持ち、将来外国につながる子どもたちを支援していったほしいと願っています。

※ 日本語教育実習Ⅱを受講する学生は先生から直接指導を受けられます。





修了生の声

日本語教育実習に参加して



衣川 沙希さん（プログラム修了生）

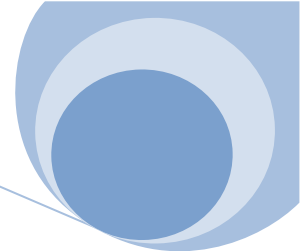
私はもともと異文化交流に興味があり、このプログラムを受講した動機も「将来外国の子どもたちと関わることができたら楽しそうだな」という気軽なものでした。ただ、学校生活の中では日本語支援を必要とする子どもに出会ったことはなく、外国人の子どもの教育は、私の中であまり意識されていませんでした。しかし、プログラムが進むにつれその意識は大きく変化しました。プログラムを通して、「外国にルーツを持つ子どもたち」を取り巻く様々な問題を聞いたり、見たり、感じたりしながら学ぶことができました。

最初は、日本語支援が必要な子どもたちに対して、「『日本語がわからない』から大変なのだ」と考えていました。しかし、それは大きな間違いで、プログラムが進み多くのことを学ぶにつれ、「『日本語がわからない』という問題だけではない」ということをはっきりと理解できました。大学での講義や日本語指導センター校の先生にいただいた講義を通して、思考と言語が強く結びついていることを学びました。そして、実際に日本語支援が必要な子どもたちと関わって、子どもたちの気持ちを知りました。望んで日本に来たわけではないこと、日本語を学ぶことや日本語で学ぶことの苦痛、慣れない日本の文化に耐えられない気持ち、……。彼らの様々な気持ちに触れ、「この子たちの力になりたい」と強く思うようになりました。

山梨県にも多くの日本語支援を必要とする子どもたちがいます。どの都道府県であっても少なからずいます。小学校にも、もちろん中学校にもいます。日本語教育実習や教育ボランティアを通して実際にそのような子どもたちと関わることで、支援の大切さと不十分さを実感しました。私は、どこで出会うかわからないそのような子どもたちに精一杯の支援ができるよう、より多くの人にこのプログラムを受講していただきたいと思っています。

このプログラムの利点の1つは、負担が大きくないという点です。私は、小学校教諭免許と社会科の中学校教諭免許に加え、家庭科の中学校教諭免許と地歴の高校教諭免許の取得ができるよう履修していました。そんな私でも、負担に感じることなくプログラムを受講できました。負担に感じるどころか、4年生の時に受講した日本語教育実習では、それまでの小・中学校での教育実習とは異なる学びが多くありました。

最後に、日本語教育実習の中で、強く心に残っている出来事をお話させていただきます。私が担当させていただいたのは小学4年生の男の子でした。ある日、漢字50問書きとりの再テストが行われたのですが、1問も正答できませんでした。「ボク、漢字イヤだな



あ。早く遊びたい。」と話していました。私は、そのテストで比較的簡単な15問に印をつけ「これだけでいいから、次のテストで書けるように練習しておいで。」と声を掛けました。すると、2週間後、「先生、ボクこのまえ25問正解したよ。今日はリベンジする。」と教えてくれました。何もわからないまま漢字テストを見つめる表情も、うってかわって自信ありげに、嬉しそうに話してくれる表情もどちらも忘れられません。この出来事は、私に「子どもにとって『わからない』辛さ」と「支援のやり方次第で子どもは驚くほどがんばる」ということを教えてくれました。

卒業後は、山梨県の中学校教員として働きます。実際の教育現場で、外国にルーツを持つ子どもたちを支援していきたいと思っています。前述しましたが、プログラムを受講する前の私には、そのような子どもたちの辛さや困難さは見えていませんでした。このプログラムを受講したことにより、視野が広がりました。このプログラムの価値は、日本語支援のノウハウを身に付けられるという点だけでなく、困難さを感じる子どもたちの実態を知ることができるという点にもあると感じています。自らの視野が広がったことにより、考え方や視点も多様になりました。また、第2言語の習得の意欲や青年海外協力隊への興味など自分自身の可能性も広がったと感じています。

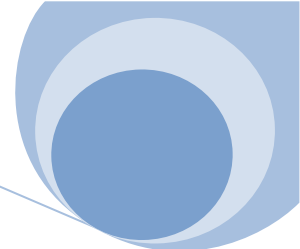
このプログラムを通してしか経験できない学びが数多くありました。是非皆さんにもこのプログラムを受講していただき、他では得られない学びの機会にしてほしいと願っています。



絵を見て説明してみよう



記号の意味を覚えよう



修了生の声

日本語教師って、こんな仕事！



川口 ^{あきら} 慧さん（プログラム修了生）

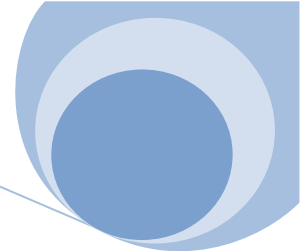
皆さんは、日本語教師ってどんな仕事かご存知ですか。日本語教師という言葉はどこかで聞いたことがあるけど、具体的にはどんなことをしているのか、あまりよく知らないという人のほうが多いと思います。ここでは、そんな皆さんに、日本語教師が毎日どんなことをしているのか、また日本語学校ってどんなところかということをお伝えできればと思います。

日本語教師の仕事のメインはもちろん外国人に日本語を教えることです。日本人なら誰でも日本語が話せるし、日本語を教えるのはそれほど難しくないんじゃないのと思っているそこのアナタ！それはとんでもない誤解です。何しろ日本語の授業では日本人が想像もしない質問が次々に飛んでくるからです。例えば、私が教壇に立ったばかりの頃の話です。「私にとって優しい」と「私に対して優しい」の違いを説明してほしいと聞かれ、その日学生が納得するまで説明させられたことは今でも忘れられません。

外国人が理解できる言葉がかぎられているなか、どのように教えるかを考えるのは、まるでゲームのようです。また授業をしていても実際に考えた通りに進まなかったり、学習者の負担を減らすつもりでやったことがかえって学生から不評だったり、失敗や困難もあります。しかし、学生たちの日本語が日々上達していく様子や、真面目に学習に取り組む姿、日本語能力試験に合格し心から喜んでいる様子を見るにつけ、「今日もまた頑張ろう！」とやり甲斐を感じる仕事でもあります。

さて、日本語学校には、こうした日本語指導以外にも様々な仕事があります。その筆頭が留学生の生活指導です。留学生の生活指導は、毎日の授業の出席確認にはじまり、悩み相談の相手になるといったこともあります。相談の内容はじつに多様で、日本語の勉強、アルバイト、オススのラーメン店の紹介に恋バナまで、本当に色々な相談が寄せられます。そのようなかれらの思いに寄り添い、コミュニケーションを図ることも日本語教師の大切な仕事のひとつです。

次に、進学・就職指導という仕事もあります。日本語学校で学ぶ留学生の多くは、日本の大学や専門学校への進学、日本企業への就職を目標にしています。こうした留学生のキャリアデザインをサポートすることも、私たち教師に求められる仕事のひとつです。具体的には、①校内で実施される進学説明会の企画・運営、②日本留学試験^{*}の対策講



座の立案、③進路指導のための面談の実施などです（※ 日本留学試験は留学生が日本の大学に進学するときに受ける試験で、日本の高校生ならセンター試験にあたります）。

留学生との進路面談では、かれらの希望を聞きながらそれぞれの能力に合った学校を紹介し、志望校を決めていきます。ときには、志望校のレベルが高すぎて、かれらに進路を考え直させるということもあります。こうした進路指導は、一人一人の将来を決める重大な責務をとまなう仕事で苦勞も多いですが、留学生と二人三脚、様々な試練を乗り越えて志望校に合格できたときの喜び、そして卒業のときの「先生、ありがとう！」の一言は何にも代えがたいものがあります。

こんなふうに、日本語教師という仕事は本当に様々な側面を持っています。言い換えると、それだけ様々な資質や能力を発揮できる仕事であるということです。色々と堅苦しいことも書きましたが、もし、日本語教師という仕事に少しでも興味を持った方、興味はないけどちょっと気になるという人、ぜひ気軽に本校に遊びに来てください。色々な国の学習者といっしょに皆さんをお待ちしています。

最後になりましたが、日本語を教えるということは本当に楽しいですよ！



日本語を教える川口さん



授業のあと留学生たちと

日本語学校

川口慧さんは、山梨大学で日本語教員養成プログラムを終え、また在学中に大学連携協定校のタイ王国コンケン大学で日本語教育を学んだあと、甲府にあるユニタス日本語学校に赴任し、現在日本語教師として教鞭をとっておられます。

ユニタス日本語学校は、語学教育を通じた国際人養成を目的に 1970 年に設立された語学学校で、1983 年に日本語学校を付設し、現在 20 か国以上の国の人たちが日本語と日本文化を学んでいます。

※ 日本語教育概論の授業では、川口さんをゲストスピーカーとしてお招きし、直接お話を聞く機会があります。

No. 2158



教育ルネサンス

外国人の子の
学習支援

5

外国人児童(左手前)の補習
を担当する山梨大の学生ら★外国人児童生徒の指導法を
教える大学の例

【横浜国立大】小学校の教員養成課程の学生らを対象にしたコースを開設

【京都教育大】教員養成課程の学生を対象にしたコースを開設

【信州大】教員養成課程の学生を対象にしたコースを開設

【愛知教育大】小学校の教員養成課程の学生らを対象にしたコースを来春開講予定

「この魚はどんな気持ちかな?」。甲府市の市立小
学校で6月中旬、山梨大学教
育学部4年生3人が、外国
人児童の補習の方法を学ぶ実
習を行った。

長田朱音さん(21)は、フィ
リピン出身の2年生男子の補
習を担当。国語の教科書に収
録された海が舞台の童話「ス
イミー」をゆっくりとしたペー
スで一緒に音読した。

長田さんは、登場する魚た
ちの気持ちを示す笑顔や泣き
顔の絵を別に用意し、場面ご

との魚の気持ちにどれにあた
るか、男子児童に選ばせ、内
容を理解しているか確認しな
がら音読を進めた。

小林史奈さん(21)、青木優
香さん(22)の2人は、ペルー
出身の4年生女子の補習を担
当した。ペルーの特産品や地
理を書きの日本語と絵で紹
介する新聞作りを指導。女子
児童は「わかりやすく教えて
くれた。もっと一緒にやりた
い」と楽しげだった。

山梨大は、教員養成課程の
学生が、外国人の子どもを指
導できる技能を習得するコー
スを2008年に開設した。

日本語の文法や平仮名などの
文字の教え方のほか、外国人
が教科を学ぶ際につまずきや
すい部分は何か、それをどの

ように教えればよいか、生活
様式や宗教などの違いを理解
する方法などを学ぶ。

文部科学省によると、日本
語が十分に理解できず、学習
支援が必要な外国人の児童生
徒は、2014年度で全国の
公立小中学校など6137校
に在籍する。一方、平易な日
本語で指導する技能を持つ専
任教員は今年度で約1600
人しか配置されていない。

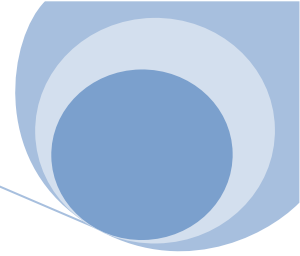
同省は、専任教員の増員を
目指す一方、外国人の指導経
験がない公立小中高の教員
に、指導法を身に付けてもら
う研修の受講も促す。だが、
研修を実施する国の機関は茨
城県つくば市の教員研修セン
ターにあるだけで、15年度の
受講者は、校長ら管理職も含
め121人。

こうした現状に、大学在学
中に外国人の子を学習指導す
る技能を身に付けてもらう取
り組みに注目が集まっている。

＊この連載は東田友紀が担
当しました。次のシリーズは
「部活動」をテーマにする予
定です。

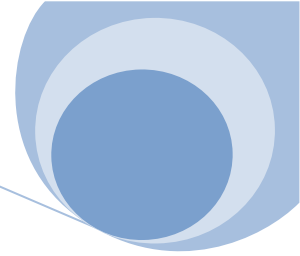
教員志望学生が技能習得

学
ぶ
育
む



別表 日本語教員養成において必要とされる教育内容

区 分		内 容	キーワード
社会／文化／地域	世界と日本	歴史/文化/文明/社会/教育/哲学/国際関係/日本事情/日本文学…	世界史/日本史/文学/芸術/教育制度/政治/経済/貿易外交/人口動態/労働政策/日本の経営/グローバルスタンダード/社会習慣/時事問題…
	異文化接触	国際協力/文化交流/留学生政策/移民・難民政策/研修生受入政策/外国人児童生徒/帰国児童生徒/地域協力/精神衛生…	国際機関/技術移転/出入国管理/外国人就労/共生社会/難民条約/子どもの権利条約/国籍/少数民族/異文化適応/カウンセリング/ODA/NGO/NPO…
	日本語教育の歴史と現状	日本語教育史/言語政策/教員養成/学習者の多様化/教育哲学/学習者の推移/日本語試験/各国語試験/世界各地域の日本語教育事情/日本各地域の日本語教育事情…	第二次世界大戦/国際共通語/日本語教員養成講座/留学生/就学生/技術研修生/中国帰国者/難民/出入国管理及び難民認定法(入管法)/地域の日本語教育/日本語教育能力検定試験/日本語能力試験/ジェトロビジネス日本語能力テスト/ACTFL/TOEFL/TOEIC/英検…
言語と社会	言語と社会の関係	ことばと文化/社会言語学/社会文化能力/言語接触/言語管理/言語政策/言語社会学/教育哲学/教育社会学/教育制度…	世界観/宗教観/法意識/自己概念/個人主義/集団主義/公用語/方言/言語生活/外国語・第二言語教育/ピジン・クレオール/ダイグロシア/二言語併用…
	言語使用と社会	言語変種/ジェンダー差・世代差/地域言語/待遇・ポライトネス/言語・非言語行動/コミュニケーション・ストラテジー/地域生活関連情報…	語用論ルール/ウチ・ソト/やりもらい/会話のルール/メタ言語/沈黙/意志決定/交渉/根回し/稟議/時間・空間意識/ホンネとタテマエ/人称代名詞・親族名称・呼称/メタファー/発話行為(依頼・言い訳・感謝・約束・謝罪等)/指標/終助詞…
	異文化コミュニケーションと社会	異文化受容・適応/言語・文化相対主義/自文化(自民族)中心主義/アイデンティティ/多文化主義/異文化間トレランス/言語イデオロギー/言語選択…	意味付け/コードスイッチング/翻訳/通訳/バイカルチャリズム/エスノリンギスティック・バイタリティ/イクイティ/共生/コンテクスト/異文化交渉/国際協力…
言語と心理	言語理解の過程	言語理解/談話理解/予測・推測能力/記憶/視点/言語学習…	記憶(エピソード記憶・意味記憶)/スキーマ/トップダウン・ボトムアップ・処理/推論…
	言語習得・発達	幼児言語/習得過程(第一言語・第二言語)/中間言語/言語喪失/バイリンガリズム/学習過程/学習者タイプ/学習ストラテジー…	第一言語・第二言語/相互依存仮説/帰納的・演繹的学習法/言語転移/意味フィルター/発達障害/学習障害(LD)/言語病理/沈黙期…
	異文化理解と心理	異文化間心理学/社会的スキル/集団主義/教育心理/日本語の学習・教育の情意的側面…	カルチャーショック/文化摩擦/判断停止(エポケー)/文化化/異文化トレーニング/自己開示…



言語と教育	言語教育法・実習	実践的知識/実践的能力/自己点検能力/カリキュラム/コースデザイン/教室活動/教授法/評価法/学習者情報/教育実習/教育環境/地域別・年齢別日本語教育法/教育情報/ニーズ分析/誤用分析/教材分析・開発…	教室研究（クラスルームリサーチ）／アクションリサーチ／グループダイナミクス／ドラマ／ロールプレイ／スピーチ／ディベート／ディスカッション／多言語・多文化／インタラクション／教師の自己研修（ティーチャー・ディベロップメント）／コミュニケーション・テスト／アセスメント／ポートフォリオ／シラバス／レディネス…
	異文化間教育・コミュニケーション教育	異文化間教育/多文化教育/国際・比較教育/国際理解教育/コミュニケーション教育/スピーチ・コミュニケーション/異文化コミュニケーション訓練/開発コミュニケーション/異文化マネジメント/異文化心理/教育心理/言語間対照/学習者の権利…	異文化トレーニング/母語保持/エンパワメント/加算・減算的バイリンガリズム/言語転移/相互学習/体験学習/イマージョン教育/クリティカル・インシデント（危機事例）/カルチャー・アシミレータ/判断停止（エポケー）/ファシリテータ…
	言語教育と情報	教材開発/教材選択/教育工学/システム工学/統計処理/メディア・リテラシー/情報リテラシー/マルチメディア…	教材/教具/メディア/コンテンツ/ネットワーク/視聴覚情報/言語コーパス/CAI・CALL・CMI/衛星通信/ファシリテータ/知的所有権/著作権…
言語	言語の構造一般	一般言語学/世界の諸言語/言語の類型/音声的類型/形態（語彙）的類型/統語的類型/意味論的類型/語用論的類型/音声と文法……	語族/SOV・SVO言語/モーラ言語/膠着語/高文脈/相対敬語/発話行為/ポライトネス/パラ言語/非言語/表音・表意文字/タイポロジー…
	日本語の構造	日本語の系統/日本語の構造/音韻体系/形態・語彙体系/文法体系/意味体系/語用論的規範/表記/日本語史……	南方・北方説/音素/アクセント/イントネーション/形態素/語構成/文節/品詞分類/文法/命題/モダリティ/文章談話構造/語用論的機能/発話行為/位相/待遇表現/方言/性差…
	言語研究	理論言語学/応用言語学/情報学/社会言語学/心理言語学/認知言語学/言語地理学/対照言語学/計量言語学/歴史言語学/コミュニケーション学…	調査・分析法/リサーチ・ツール/リサーチ・クエスチョン/論文作成法/発表形態/学会…
	コミュニケーション能力	受容・理解能力/表出能力/言語運用能力/談話構成能力/議論能力/社会文化能力/対人関係能力/異文化調整能力…	4技能/葛藤処理（管理）/プレゼンテーション/対人関係構築・維持/関係修復/判断停止（エポケー）/日本語能力/外国語能力…